



鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成24年新年号 (No.34)



新しい年を迎えて

薬物依存症リハビリテーションセン
NPO 法人岐阜ダルク
理事長 由井滋

昨年は世界において歴史的出来事が続き不安が蔓延した年でした。日本ではリーマンショックから立ち上がろうとする矢先に東日本大震災や原発事故などによって苦境に追い込まれ破壊されました。

そんな中で互いの絆の大切さに目覚め励まし合って立ち上がろうとしています。岐阜ダルクも皆様の物心両面からのご支援によって7周年を迎えることが心から感謝致しております。

今は岐阜地域だけでなく、高山、多治見地域に広がり講演、コンサートを通して薬物依存からの回復メッセージを届け続けています。地道な活動を通して新しい生き方を学び絶望寸前の人達がダルクにつながり絆の大切さに気づき、仲間と共に歩んでいる姿はまわりの人に希望を与えます。

昨年はダルク後援会長に齋藤牧師を迎え、今年は施設長遠山さんにすばらしいパートナーに恵まれ、ダルクもより充実してきました。今年は女性入寮施設（女性ハウス）ができることを夢見ています。

これからもどうか岐阜ダルクを見守り支えて下さることを切にお願い致します。今年も皆様にとって良い年でありますように。

仲間の体験談



キツネ

初めまして、依存症のキツネです。

12月1日、岐阜ダルクに繋がりました。僕の人生が変わり始めたのは、14歳の頃からだと思います。僕に反抗期が来て母と口論するようになり、言う事を聞かなければビンタや言葉の暴力が始まりました。母が、「クサイから部屋に入ってくるな」「あんたはゴミと一緒に汚いから近よらないで」「早く死んで」「出ていけ」と言ってくるようになり、僕は、家出をしたり、リストカットを繰り返すようになり、毎日「死にたい」と思いました。2回首を吊りましたがヒモが切れて死ねませんでした。母との関係も良くならないまま、学校へ通っていた時、学校で薬物の講習がありました。講習では、「薬物を使うとどうなってしまうのか」と「どんな薬物があるのか」と絶対に薬物を使ってはいけない」と教えられました。

ですが僕は、薬物に興味が湧きました。「イヤな気分が吹き飛ばす」と誘ってくると「ダメゼッタイ」の本に書いてあったからです。「手に入るなら今すぐ使いたい」と思いました。死にたいと思いながら16歳になり、20代の先輩から「マリファナ吸うか?」と聞かれました。僕はすぐに「吸ってみたい」と言いました。名古屋に買いに行き、車の中で「マリファナを吸うと、つまらない事が楽しくなり、音楽が綺麗に聞こえ「死にたい」が「生きたい」に変わり薬物を使えば苦しみから解放された気がしました。それから仕事が休みの日は、先輩の家に泊まりに行くようになりました。先輩はDJをしていて、僕もDJを教えてもらうようになり、休みの日は大麻を吸ってDJをするのが楽しみになりました。初めて友人達の前で大麻を吸ってDJをした時は本当に幸せでした。

それからDJとして名を上げる為に違う箱(編集部注・クラブ)に行くようになりました。その箱ではMDMAが流行っていて、僕もMDMAを使うようになりました。

MDMAを使えば、夜10時から朝の6時までずっと踊り続けられるし、DJをすればうまくなるし、パフォーマンスも大胆になりました。そしてどんどんMDMAにハマっていききました。シラフでも社交性が増し、どんどん明るくなっていきました。

僕はMDMAを使う度に、明るくなると思っていたし、社交性もどんどん増すと思っていて、毎週使用するようになりました。今まで僕は、薬を使って嫌な気分をごまかして、生きてきました。

ダルクに繋がって、今は、『薬物を使わないで生きる事が大変な事』『執行猶予中なのに覚せい剤が使いたくて仕方ない事』『薬だけが問題ではない事』など色々な事に気付かされました。僕は毎日、薬を使いたいと思います。けど、これからはバカらしくないのので使わずに生きていこうと思います。次回は、「LSD」「覚せい剤」での体験について書こうと思います。お楽しみに!

※MDMA(メチレンジオキシメタンフェタミン) PTSDの治療薬目的で開発されました。多幸感をもたらします。しかし医療用途の見込みがないうえ、記憶障害や神経細胞の永続的な破壊を引き起こすため、現在は法によって規制されています。

※編集部より・この体験談は原文のままです。ダルクに入所して1ヶ月の状態での体験談です。ご理解のうえ、これからの成長や変化などを見守っていただければ幸いです。

岐阜ダルクと共同開催したパネルディスカッション(公開討論会)を終えて

岐阜保護観察所 統括保護観察官 長尾和哉

平成23年12月2日、JR岐阜駅構内にあるハートフルスクエアGにおいて、「薬物依存者の社会復帰に向けて」と題したパネルディスカッション(公開討論会)を岐阜ダルクと共同で開催しました。会場には、保護司のほか、関心の高い一般の市民が80名ほど集まり、コーディネーターである京都府立大学の山野尚美准教授による司会・進行のもと、笠松刑務所の鞆飼芳恵教育専門官、岐阜ダルクの遠山香代表、養南病院の杉田憲夫院長及び本職がパネリストとなり、それぞれの立場における取組についての説明がなされた上で、会場からの発言も求め、質疑応答や意見交換がなされました。時間の制約上、十分な議論ができたとは言えませんが、会場を見渡すと、熱心に耳を傾け、ペンを走らせる参加者ばかりで、関心の強さが窺われる質問が相次ぎ、手応えを実感できる雰囲気の中に閉会しました。

岐阜保護観察所と岐阜ダルクとは、もともと個々の保護観察対象者を通じて連携がありましたが、本年度になり、両者において組織的な連携ができないかという岐阜保護観察所長の指示のもと、連携の在り方を巡る話し合いがなされる中で、今回のパネルディスカッションが企画されました。既に岐阜ダルクにおかれては、スタッフが笠松刑務所に赴き、薬物犯罪で受刑している人々に対する薬物防止プログラムに参画・協力しているという実績がある上に、養南病院や各務原病院などの医療機関とも連携を密にしているところですが、受刑中、家族の相談相手となり、仮釈放後は、本人と定期的に面接を行うという重要な役割を担っている保護司にこそ、ダルクの存在を正しく理解し、できる限りの協力をすることが求められていると考え、薬物乱用者の問題に精通している保護司にも積極的に声をかけました。パネルディスカッションでは、薬物乱用が犯罪行為であると同時に、その多くが依存症又は嗜癖(アディクション)という一種の「病気」の状態であることを前提として話し合われましたが、岐阜保護観察所としては、依存症又は嗜癖に一定の効果が認められる認知行動療法、自助グループ及び医療などの専門的な手立てを症状に合わせて組み合わせるベストミックスの視点を持つべきであるとし、薬物事犯の保護観察対象者等に対する処遇はもとより、薬物乱用防止教育などの実施に向け、岐阜ダルクや精神病院などの機関が相互に連携し合う多機関連携の重要性を提唱した次第です。

岐阜ダルクとの連携に関連して、現在、検討されているのは、薬物に手を出し、受刑することになった人々の家族を呼び集め、「家族会」なるものを立ち上げることです。家族として本人にどう向き合っていけば良いのかと思い悩んでいる人々に対し、ダルクのスタッフによって救いの手が差し伸べられることを期待しています。また、岐阜ダルクに宿泊施設が用意されればの話ですが、保護観察対象者等を委託するという連携も可能となります。このように、岐阜ダルクと岐阜保護観察所の組織的な連携は、まさに始まろうとしています。その意味では、今回のパネルディスカッションの開催は、その大きな扉を開けたと言えます。一人でも多くの方が薬物依存の状態から回復されることを願い、岐阜ダルクをはじめとする多くの機関の力添えを得ながら、精一杯手を尽くしていきたいと考えているところです。

パネルディスカッション開催



今後も毎年開催するぞよ
~!!



岐阜市より市民活動支援事業の助成を頂き、「薬物依存者への更正事業」と題して岐阜市で薬物依存者と関わる各機関の方々とパネルディスカッションを開催しました。当日は保護司の方を中心に100名ほどの方が参加されました。コーディネーターに昨年、市民活動支援事業で冊子を作成したときにご協力頂いた、京都府立大学准教授の山野尚美先生を向かい、パネリストは笠松刑務所教育専門官、保護観察官、養南病院院長、岐阜ダルク責任者、刑務所を出所後の薬物依存者が関わる各機関の支援の現状と今後の課題を検討しました。各方面から連携を取って薬物依存者に対する支援をしていく事が必要であり、今後もこのような取り組みを継続して行っていく事が大切であることと再確認しました。

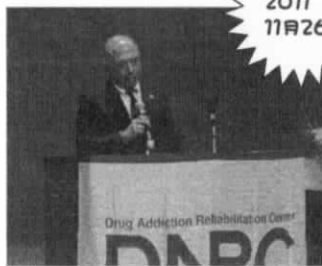


JCCA参加



岐阜ダルクより1年早く開設したびわこダルク。地域にしっかりと根ざし、行政からの支援をしっかりと受けられていて本当にうらやま限り。

2011
11月26日
びわこダルク
フォーラム参加



JCCA（日本カトリック依存症者のための会）は、十二ステップをプログラムの中心として活動している依存症関連施設等であれば色々な施設、団体も加入できる開かれた会であり、もちろんカトリックの信仰を基盤に捉えています。今、依存症に苦しんでいる方々に何らかの形で手助けをしていく事を考えていく会です。今年の名古屋で開催されたので、岐阜ダルクの仲間も全員で参加しました。全国のダルクやマツクの施設長もたくさん集まりました。

ダルク忘年会

十二月二十五日、名古屋ダルク・三河ダルク・岐阜ダルクの仲間総勢二十五名程が集まり、下呂温泉での忘年会。食事の後は、カラオケを楽しんで、のんびり温泉につかって癒されました。毎年恒例の温泉でしめくり。



2012
12/31

年末年始中部エリアギャザリング開催



伊勢・二宮ヶ浦駅前の旅館「四十名の神楽屋が響く。」に「リブ・ア・シーン」がはまり、中継車で年末年始を過ごしました。

伝言ゲーム

レクリエーション

二人羽織



どんなに寒い競争、復讐の、ちゃんとおぼせてね「無言いびきさー」の「いびき」、怖いー！あける、2位は皆んなし、がっ！

どうしようい？？を……
え？？？何なに？わがら～
ん、結構難しい……

活動報告

12月

- 1日 ダルク後援会会議
- 2日 岐阜市市民活動支援事業
パネルディスカッション
- 6日 ニュースレター発送作業
更生保護女性会講話
- 7日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 8日 岐阜市幼小中高生徒指導
研究協議会総会・講演
- 10日 依存症を学ぶついで
薬物電話相談日
- 12日 各務原病院メッセージ
- 15日 朝日新聞取材
- 18日 NA オープンスピーカー
- 21日 笠松刑務所薬物離脱指導
- 22日 歳末たすけあい
援助事業助成金贈呈式
- 24日 薬物電話相談日
NA クリスマス会
- 25日 忘年会
- 28・29日 大掃除
- 31日 NA 中部エリアギャザリング

「食われる
助けて～」
「あいよ～」
「うりゃ～」



平成二三年度歳末たすけあい運動に共催された岐阜社会福祉事業協会の浄財をもとに、岐阜市社会福祉協議会様より助成金8万円をいただきました。2月始めに鳥取ダルクのプログラムに参加し、交流を深めるための交通費とスノーボードを行うために使わせていただきます。



薬物依存症という病気などについて

岐阜ダルク後援会
広報担当 鈴木輝一郎



△薬物依存と犯罪について

依存症を誘発する薬物のうち、法で規制されているのは、依存性が顕著な薬物の、ごく一部にすぎません。違法薬物を使用することは犯罪ですが、規制されていないからといって安全なわけではありません。合法であっても依存症となりえます。

現在、ダルクでは合法的に処方された睡眠薬や向精神薬への依存にも対処しております。

△薬物依存症者にはおおきく2つの流れがあります。両方をあわせ持つ場合もあります。

- 1) 薬物取締関係法に違反した刑法犯
- 2) 薬物依存症という精神疾患

ダルクは現況ではスタッフが刑務所や医療機関に出向き、回復と社会復帰をサポートしています。

△薬物依存症者と女性について

薬物事犯は他の刑法犯罪にくらべて女性の比率がきわめて高いのが特徴です。その一方、女性向けの回復施設が不足しているのが現状です。どうか、ご理解とご協力をお願いいたします。



「闇の中の光」

岐阜ダルク後援会
会長 齋藤幸二

皆様に支えられて岐阜ダルクの活動が今日まで続けられてきましたことを心より感謝いたします。この活動によって多くの若い人々が希望のない闇の生活から光のある生活へ、いつ生命を失うかもしれない危険な生活から健康な生活へと回復しています。

薬物依存症の方々はこの社会で生きづらさを感じているナイーブな人たちです。こうした人々がダルクに通うことにより、回復をし、今度は同じ苦しみや危険の中にいる仲間たちのために尽くしたいと願いようになる姿を見るにつけ、この働きが絶対に必要だと思われています。

しかし岐阜ダルクは相変わらず経済的に窮地に立たされています。ダルクの活動は岐阜のような地方都市では行政の支援を受けられる定員数に達することは困難ですので、岐阜ダルクを支える力は皆様の祈りと愛の献げものによる以外にありません。今も闇の中からの救いを必要としている人々が多くいます。この働きのために皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。



←1月3日に家内と甲府の実家に帰省しました。途中、富士山がとてもきれいに見えました。

1月活動予定

| | |
|-------------|---------------|
| 1日・2日 | NA中部エリアギャザリング |
| 8日 | 関キリスト教会募金活動 |
| 11日・14日・28日 | 薬物電話相談 |
| 13日・25日 | 笠松刑務所離脱指導 |
| 15日 | 掛斐キリスト教会募金活動 |
| 19日 | ダルク後援会会議 |
| 22日 | 各務原純福音教会募金活動 |
| 24日 | ニュースレター発送作業 |
| 29日 | 岐阜キリスト教会募金活動 |
| 30日・31日 | 全国ダルク責任者研修会 |

2月活動予定

| | |
|-----------|---------------------|
| 2日 | ダルク後援会会議 |
| 5~8日 | 鳥取ダルクプログラム参加 |
| 9日・1日・25日 | 薬物電話相談 依存症を学ぶつどい |
| 12日 | 羽島キリスト教会 |
| 13日 | 各務原病院メッセージ |
| 15日・22日 | 笠松刑務所薬物離脱指導 |

3月活動予定

| | |
|-------------|------------|
| 8日・9日 | 京都マック研修会 |
| 10日・14日・24日 | 薬物電話相談 |
| 12日 | 各務原病院メッセージ |



ご協力ありがとうございます

献金者名 (11月11日～12月22日到着分)

南澤憲吾 岡田喜美江 中津川更生保護女性会会長・近藤美保 カトリック神宮修道会多治見教会 澤木幾佐 各務原カトリック教会 日本聖公会
愛岐教区 日置芳夫 吉田道子 カトリック一宮教会バザー実行委員会 池田ひろみ 岐阜加納教会婦人会 可児福音教会 金井聡 岐阜純福音音
大森チャーチ 更生保護法人岐阜県更生保護事業協力会 高井浩 伊佐地金剛 一宮聖光教会 大須賀すみ 多治見保護区保護司会会長・若尾元幸
西堀則男 坂本純一 弁護士・長澤清 福安一幸 河崎博 砂田茂登子 市川尚子 市岡多賀陽 伊藤幸雄 普久原朝経 弁護士・伊藤知恵子 聖パウ
ロ女子修道会 久保田芳則 成井尋江 薬剤師・中田周三 幼き聖マリア修道会 弁護士・神谷慎一 今井扶美子 青井初恵 渡辺真帆 塚本恵一 渡
辺英俊 社会福祉法人ゆうゆう会せんしん保育園 安藤平 清水茂雄 大野智子 奥垣一 朝守令彦 NPO 法人きずなの会岐阜事務所・住昇 岐阜県
地域生活定着支援センター・須田敦子 安藤昌司 田中世津子 原政子 市原滋比古 南史枝 エシタマサユキ 立垣昭 奥田隆一 カトリック岐阜教
会 林直 永嶋恵美 折内康一郎 イイダユミコ ヨネダシンゴ 北谷雅春 イナジマショウゴ スガヤミツル エノモトマヒロ 日本キリスト教会
岐阜教会 長尾千恵子 カトリック日比野教会 同盟福音基督教会岐阜キリスト教会 椎名明大 家田重晴 仙田正子 平野佳代子 木曾由美子 宗
教法日本キリスト教会大垣教会 田中英子 篠原陸人 小比賀幸子 松居勲 永井照子 早見裕司 岡部啓代 石川昭見 日本福音ルーテル大垣教
会 茂木幸雄 白川博子 日本キリスト改革派岐阜加納教会 匿名者9名

献品者名

セカンドハーベスト 多治見クライストチャーチ 穂波万有里 日本キリスト教会大垣教会

※ 発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいりますが、
その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

※ 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

施設長より (遠山香)

- 12月9日付けのダルク通帳残高が41,936円となり活動資金が足りず、大ピンチに陥りましたが寄付金のお
願いに応じて下さった方々のおかげでダルク後援会の方に寄付金が集まり、1ヶ月半は活動が続けられる活動
資金を後援会から頂きました。ダルク利用者は無事、年を越すことができました。本当にありがとうございます
です。心よりお礼申し上げます。ダルクの扉を開け続けることができるよう今後もどうか継続して支えてい
ただけることを心よりお願い申し上げます。
- 女性ハウス物件情報をいただき、見に行ってきました。2階建てで6DKの南向きのとても良い物件を見せ
ていただきましたが地の利もありますし思案中。何よりも家賃値下げ交渉中です。今後も物件情報をお知
らせくださいますようお願い致します。女性ハウス設立資金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク

編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎

〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-251-6922

Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>

2012年 岐阜ダルクニュースレター新年号 (No.34)

定価 1部 200円

編集責任者 遠山 香

発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会

名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

このつうしんは岐阜市市民活動支援事業の助成を受けて、作成と発送をしています!!